



2012年4月入職

きむらりょうた
木村亮太

「快適に過ごしてもらいたい」という気持ちが全て

自分が人見知りだからこそ、痛みが分かる

私が臨床工学技士を目指そうと思ったのは、高校生のときでした。祖父が入院し、お見舞いに行ったときに人工呼吸器を見て、医療機器に興味を持ったのがきっかけです。臨床工学技士にはたくさんの業務がありますが、その中から透析を選んだのは、患者さまとコミュニケーションを取る機会が一番多いからです。私は性格が内気で、初対面の方には人見知りの部分が出てしまうこともあるのですが、自分の性格を変えたい、苦手なところを改善したいという思いから透析の道を選びました。

日々の業務の中では「いかに患者さまに快適さを感じていただけるか」を意識しているのですが、自分が人見知りだからこそそのメリットもあると感じています。患者さまの中にも人見知りの方はいらっしゃいますし、言いたいことがあっても中々口に出せないというケースは多々あるはずですが。その気持ちはよく理解出来るので、「何か困ったことがないか」という気配りを常に心がけています。「痛い」と言葉に出していないけれども、実は我慢されている方もいらっしゃるの、眉間に皺は寄っていないかなど、些細な動きも見逃さないようにしています。思いやりエキスパートに選ばれたことで、内気な性格が少しずつ外向きになっている感覚はありますが、こういった細かなところを汲み取るスタンスは今後も大切にしていきたいです。



気持ちがあれば、行動は自ずと変わる



思いやりエキスパートの研修を受ける度に、患者さまやスタッフから「さらに礼儀正しくなったね」「笑顔が良くなったよ」という声をかけていただきました。「こんなに目に見えて反応があるんだ」という驚きと同時に、「もっとがんばろう」というモチベーションもどんどん高まってきました。研修を通して変わった理由は、思いやり行動を学んだことで、「快適に過ごしてもらいたい」という気持ちがより強くなったから

だと思います。臨床工学技士の仕事には手技や知識も必要ですが、最も重要なのは気持ちです。気持ちがあれば、自ずと行動に表れるようになります。思いやりエキスパートになったことで、次のステージに上がった実感があります。

常に笑顔で元気よく、
患者さまに安心を与え、
私と関わる全ての方から
信頼されるCEになりたい。

木村亮太